

埼玉アートシアター通信

NO.
23

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2009.9-10月号

【NINAGAWA 千の目】
まなざし

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

俳優

蜷川幸雄 ✕ 勝村政信



真田 五藏

Saitama
Next
Theatre

INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.23 Sep.-Oct.

ESSAY 03 さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』
永井 愛

PLAY 04 さいたまネクスト・シアター
『真田風雲録』

PLAY 06 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾
『ヘンリー六世』

TALK 08 公開対談 NINAGAWA千の目 第19回 蜷川幸雄×
俳優 **勝村政信**

DANCE 10 **ローザス** 『ツァイトウング Zeitung』

DANCE 12 池田扶美代+アラン・プラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク
『ナイン・フィンガー Nine Finger』
アラン・プラテル インタビュー

MUSIC 14 **Classic Season Lineup
2009-2010**

20 **EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION**

イベント・カレンダー 2009.9.15-2009.11.30
前売りチケット発売情報(～2009.11.15)
発売中公演情報

23 **THEATER BRIDGE**

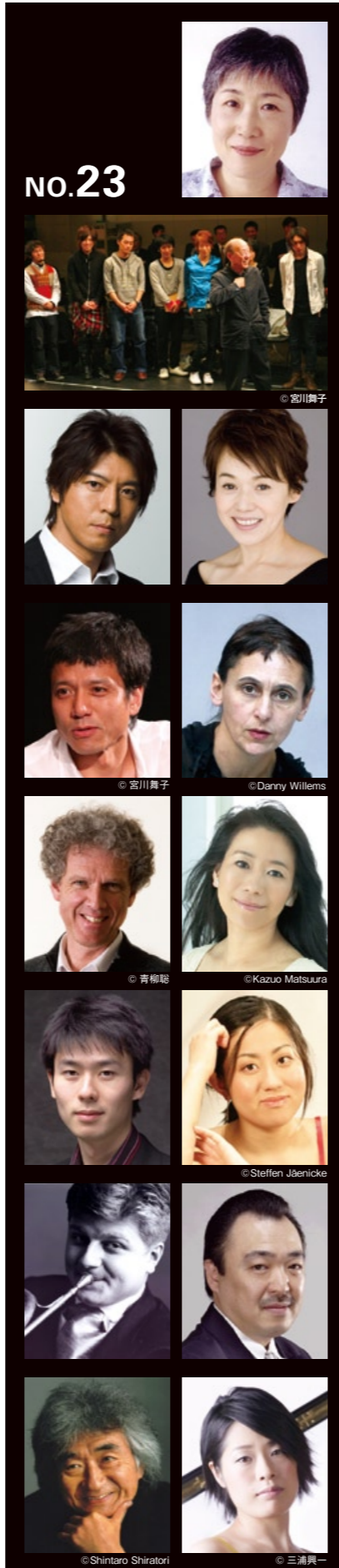
募集など劇場からのご案内

24 **劇場に遊ぶ、劇場で出会う**

表紙:さいたまネクスト・シアター『真田風雲録』

裏表紙:バレエ・リュス展(資料©兵庫県立芸術文化センター-薄井憲二バレエ・コレクション) 編集:佐藤優

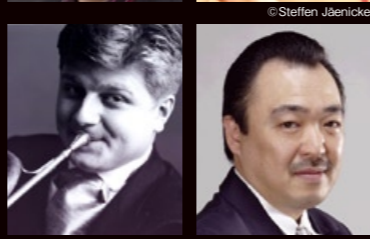
©(財)埼玉芸術文化振興財団 Published on 15. SEPTEMBER 2009 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation



No.23



©宮川舞子



©Shintaro Shiratori

©三浦興一

【作】ケラリーノ・サンドロヴィッチ (演出) 蜷川幸雄
【出演】さいたまゴールド・シアター
6月18日(木)・17月1日(水) 全12公演 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



ながいあい◎劇作家・演出家。「三社主宰」身近な場や意識下に潜む問題をすくい上げ、現実の生活に直結した、ライブ感覚あふれる劇作を続けている。主な作品は「時の物語」「秋家の三姉妹」「ら抜き子」「この子は、母さん」「書く女」「歌わせた男たち」など。岸田國士戯曲賞、鶴岡南北戯曲賞、読売文学賞、朝日賞、三浦賞、松代賞などを受賞。2010年3月に新作を発表予定。

さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 6月29日公演より

永井 愛

衝撃の一夜

たぶん、ピーター・ブルックの言葉だったと思う。よい芝居というのは、観た人を解体し、再構築させずにはおかないと、確かそんな意味合いだった。こんなうる覚えをあえて引っぱり出したのは、『アンドウ家の一夜』が、全くそのように私に作用したからだ。幕が開き、安藤先生の妻、秘書、医師、看護士が階段を下りてきて、瀕死の病人を抱える人々らしく神秘的な面持ちで向かい合ったとき、もう私の中で何かが始まっていた。

それはまず、「この人たち、本物の人間に見えるじゃないか」というショックからきた。そして、プロの役者が本物の人間に見える瞬間の何と少ないことかと思いついた。ああ、「演技力」とは何なのか？ 私の信じてきたことは何なのか？ なぜこの大問題を省みることなく、よくもこれまで……等々、新人物が登場するたび、その均一化されない「人間らしさ」に驚き、私は心地よく解体された。

もちろんここには蜷川、KERA両氏の魔力がある。42人もの登場人物すべてを劇中で発光させるような離れ業は、演劇以前に数字的難題であったはずで、両氏もまた生命の危機に瀕したのではないかとさえ想像させる。

恩師の危篤を機に50年ぶりに集まった人々。その騒がしい一夜は、どの断面も愚かしく、それゆえに神々しく一回性の「生」を照らした。私もあの「生」の一員なのだ。愚かしく神々しくあがいてみよう。きつとまだやれることがある。そう思っって劇場を出た。



10月15日初日に向け 無名戦士たち、いざ出陣

早くも飛ぶ演出家の熱い檄、それに応えようと懸命な若き魂。44名の若きメンバーに、5人の客演陣を加えた『真田風雲録』は、無名戦士たちの挑戦の場であり、蜷川幸雄にとっても若手劇団の可能性を探る、新たな挑戦といえる。

歴史の連続性を学べ —— 蜷川幸雄

《さいたまゴールド・シアター》の『95kgと97kgのあいだ』で、ゴールドのメンバーが若者の集団と共演して、お互いが刺激されて活性化したことを実感しました。若者たちも同世代だけで固まっている時とは違う化学反応を起こした。2つの劇団があると両方にとって刺激的な存在になり、それは演劇界全体の活性化につながっていくんじゃないかと思った。つまり、1軒の家に、年寄りが出て、父親母親が出て、子どもや孫がいるという形で縦軸の歴史的な時間が入ってくると、それが本来のあるべき姿だなあと。この劇場に2つの集団があり、それぞれ別々だけど、交流することで人間たちの営みにとっていちばん自然な集団が出来るのではないかというのが、《さいたまネクスト・シアター》の発想になっています。

もうひとつは、圧倒的にテレビの文化が支配している芸能の世界に対して、その価値判断とはちょっと違う、無名だけど、才能のある若者によって演劇の磁場がつくられ、公共の劇場として機能していくといふなあという思いです。

『真田風雲録』は、ブレヒトの影響を受け日本人の感性で初めて書かれた戯曲で、ちゃんとした日本人の目と身体、声によって異化を問



い直そうとした、演劇的にも意味があり、猥雑さとか芸能色も取り入れ、ある種の新劇的な教条主義とは違う形で、若者の民衆劇をつくらうとした芝居です。それを今の若者でやるというのは想像力の問題で、たかだか何十年か前の戯曲を、そのことすら理解しようとする意欲もないんだったら歴史の連続性なんてないに等しい。身体の連続性も含めて、歴史の連続性をこの芝居でちゃんと学んでほしいし、僕ときちゃんと対峙したらいいと思う。

十勇士率いる智将・真田幸村役 横田栄司が出陣を前に思うこと

本読みが始まりましたが、キャストがまだ決まっていないので、同じ場面を何人もが役を入れ替わり立ち替わり変えて稽古しています。そういう稽古は、本人たちにはとても刺激になるし、勉強になりますよね。他人の芝居を見ながら、自分だったらこうしようとか、あの言い方は俺の発想にはないなとか、いろいろなことが身につきますから。

『真田風雲録』が書かれた60年代のことは、僕も生まれていないので、もちろん知らないのですが、知らない作品の時代背景というのは、やはり蜷川さんのおっしゃるように、役者のイメージでやるしかないのでしょうか。勉強したことを一度忘れて台本に取り組みというのが大事だと思います。どんな作品でもそうですが、台本のなかに全部答えが含まれているでしょうか。

1,000人以上の応募者のなかから選ばれたネクスト・シアターのメンバーですが、蜷川さんの稽古場はとても豊かです。スタッフはもちろん、広い稽古場が用意されていて、そして蜷川さんがいて。俳優は演技だけに集中すればよく、そうした恵まれた環境のなかで彼らはスタートしているわけですね。小さいところでやっていた自分はこの贅沢さ加減が分かるので、恵まれた環境で今やれるというのはうらやましくもあるし、それに気付かないことは怖いことでもあります。

『95kgと97kgのあいだ』で、80名以上の老若両方と対峙しましたが、蜷川さんのところへ何かを求めてくるという共通点では年齢は関係ないと思うし、その志はすばらしいと思います。今回僕は、蜷川さんの要求をクリアして、ストーリーを伝えるという、自分の俳優としての作業でいっぱいですが、僕が演じる「真田幸村」は十勇士を率いるリーダー的存在ですし、芝居の中でももちろんのこと、稽古場でも積極的に彼らと関わっていききたいですね。

■客演陣



横田栄司(よこた えいじ)
1999年文学座座員となり、『TERRA NOVA』などの劇団公演のほか、外部作品にも多く出演。蜷川演出作品では『タイタス・アンドロニカス』『ロミオとジュリエット』『メディア』『オレステス』『ひばり』『カリギュラ』『リア王』『ガラスの仮面』『冬物語』『雨の夏、三十人のジュリエットが運ってきた』などのほか、さいたまゴールド・シアター『95kgと97kgのあいだ』に客演。



原 康義(はら やすよし)
1975年文学座研究所入所、80年文学座座員となり、現在に至る。主な出演舞台に、文学座『調理場』『THE CRISIS』、幹の会『リア王』、こまつ座『人間合格』、地人会『葦原校校』、『世阿弥』『放浪記』などがある。蜷川演出作品では『テンペスト』『エレクトラ』『天保十二年のシェイクスピア』『間違いの喜劇』『コリオリナス』『ガラスの仮面』『冬物語』などに出演。



山本道子(やまもと みちこ)
1971年文学座研究所入所、76年座員となり現在に至る。主な出演舞台に『STEPPING OUT』『ベルナルダ・アルバの家』『風をつむぐ少年』『ギルダ』『そして誰もいなくなった』『月夜の道化師』『華岡青洲の妻』『不知火校』など多数参加。蜷川演出作品に『タイタス・アンドロニカス』『エレクトラ』がある。



妹尾正文(せのお まさふみ)
1984年『王女メディア』海外公演をはじめ、蜷川幸雄演出作品『マクベス』『ペリクリーゼ』『オイディプス王』『天保十二年のシェイクスピア』『あわれ彼女は娼婦』『間違いの喜劇』『ひばり』『お気に召すまま』『オセロ』『リア王』『から騒ぎ』『冬物語』『コスト・オブ・ユートピア』など多数参加。蜷川監督映画『嗚う伊右衛門』『蛇にピアス』にも出演。



沢 竜二(さわ りゅうじ)
沢竜二一座座長。主な出演作に明治座『珍説大忠臣蔵』、セゾン劇場『ゴドーを待ちながら』、紀伊國屋ホール『これがドサだ!』、帝国劇場『雪の華』、年末恒例の『全国座長大会』は、今年21回を迎える。またニューヨークで時代劇ミュージカルを上演するなど、各地で精力的な活動を続けている。蜷川演出作品は『パンドラの鐘』『テンペスト』『天保十二年のシェイクスピア』『ハムレット』『タンゴ・冬の終わりに』『さらば、わが愛 覇王別姫』など。



●●●● PLAY ●●●●

さいたまネクスト・シアター『真田風雲録』

【日時】10月15日(木)～11月1日(日) 全18公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター (大ホール内)

【作】福田善之 【演出】蜷川幸雄

【出演】さいたまネクスト・シアター 横田栄司 原康義 山本道子 妹尾正文 沢竜二

【チケット(税込) 好評発売中】
一般:3,800円 メンバーズ:3,500円 ※土日公演はポイント対象外となりますので予めご了承ください。

10月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	11月	1
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	日
13:00			●	●						●	●							●	●
14:00																			
18:00																			
19:00	●	●								●	●							●	●

Photo (殺陣稽古): taro, 小松頭一郎

NINAGAWA シェイクスピアに新たな伝説

歴史の大河を駆け抜ける、



蜷川版

ヘンリー六世

来春ついに、そのベールを脱ぐ

Story 王位継承から薔薇戦争、権力闘争へ 戦いのドラマは続く……

イングランド王ヘンリー五世の死により、その息子ヘンリー六世が王位を継承するが、若い王は政治情勢を統治できず、身内の摂政グロスターと司教ウィンチェスターは反発しあっている。フランスではジャンヌ・ダルクが皇太子シャルルと共に軍を率い、イングランド軍と激しく攻防する。イングランド国内では、ランカスター家とヨーク家それぞれを支持する貴族たちが対立し、一触即発の状況が続いていた。イングランドとフランスの間に和平が締結し、ジャンヌは処刑される。ヘンリーはサフォーク伯の策略によりアンジュー公の娘マーガレットと結婚する。ヘンリーの忠臣グロスター公の妻エリナーが反逆の罪で処せられ、その後グロスター公も王妃マーガレットの愛人となったサフォークの謀

略により処刑される。ヘンリーはサフォークを追放し、王妃は悲嘆する。一方、密かに王位奪還の準備を進めていたヨーク公が出兵し、薔薇戦争が勃発する。戦いはヨーク家が優勢となり、ヘンリーはヨーク公に王位の譲渡を約束するが、マーガレットは大軍を率いてヨーク公を刺殺する。両家激戦の末ヨーク軍が勝利し、ヨーク公の長男エドワードが新王として即位する。マーガレットたちはフランスに逃走し王ルイに助けを求めるが、エドワード軍の追撃によりマーガレットは捕らえられ、息子の皇太子は殺害される。ロンドン塔に幽閉中のヘンリーもエドワードの弟リチャードに刺殺され、薔薇戦争は終結を迎える。が、野心家のリチャードはすでに次の王位を目論んでいた…。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾は、英国史劇『ヘンリー六世』。三部作として書かれた本作を訳し終えた松岡和子さんに、その面白さや見どころを語っていただいた。

父子、兄弟の、絆と愛憎

『ヘンリー六世』はシェイクスピアの処女作で、まず第二部と第三部が、次いで第一部が書かれたというのが定説になっています。はじめの二部作が大当たりし、シェイクスピアは一躍人気劇作家になった。そこで、いわば「エピソード・ワン」のかたちで第一部を手掛けたのかもしれません。百年戦争（フランスの王位継承問題を軸に100年以上にわたった英仏の戦い）の最後の攻防と、薔薇戦争（イングランドの王位継承権をめぐるランカスター家<紅薔薇>とヨーク家<白薔薇>の30年以上にわたる争い）の発端部分を描いたのが第一部です。ちなみに、第三部の最後は、ヘンリー六世の暗殺とともに、やがて書かれる『リチャード三世』の始まりにつながっています。

私自身の『ヘンリー六世』体験は、1981年に日本で唯一、三部作通しで上演された劇団シェイクスピアシアターの舞台です（出口典雄演出）。公爵や伯爵などが入り乱れて登場し、戯曲を読んだだけでは人物関係がよく分からなかったのですが、生身の役者がそれぞれのキャラクターになって舞台に出てくると、込み入った系図もスッと頭にはいり、まさに芝居ならではの血の通ったダイナミズムがありました。

日本にも源平の戦いとか、戦国時代の国盗り物語がありますが、種々様々な権力闘争や権力者の栄枯盛衰など、彼我の歴史とのアナロジーも『ヘンリー六世』の見どころのひとつです。

登場人物もバラエティに富んでいますが、とりわけ身分の上下を問わず父子兄弟がいっぱい出てきます。この芝居の一つの眼目は、王と王子、公爵とその跡継ぎというような、身分の高い者から名もない父と息子までが登場することで、全編にわたって父と息子の絆、死後に何を残すべきかというのがテーマになっています。それをシェイクスピアは意識して書いたと思う。兄弟も、ものすごく絆が強いかと思うと、ライバル意識も強くて、誰が父親の信頼を得るかというあたりも興味が尽きません。ここにも日本の場合とのアナロジーが見取れる。

跡継ぎの有無はもとより次は誰が跡を継ぐかが一族の存亡、ひいては国の存亡にかかわるという時代ですから、父と息子の縦のつながり、

兄弟という横のつながりが、重要な鍵になっています。

そこに、戦う女たちが入ってくるわけで、その筆頭がジャンヌ・ダルクとヘンリーの王妃マーガレット。結婚はすべて政略で、自分の好きな人と出会ってしまったら、それはもう不倫を余儀なくされるような、男のほうも、好きな女に出会ったら愛人にするしかない。そんな時代です。

舞台を疾走する歴史の強者たち

さらには対立項をたくさん置いてあることのおもしろさ、第一部でいえばイングランドの將軍トールボットとフランスの出自もよくわからないジャンヌ・ダルクが大きな対立項になっていますが、その他大物の政敵同士から親方と徒弟といった小さな対立項まで、さまざまな組み合わせが織り込まれ、その結果は明快な勝ち負けだから、ある意味非常にわかりやすい。対立の動機は欲望とか野心、名誉心。今回の上演では私が訳した三部作を河合祥一郎さんが前後編二部構成の上演台本にしてくださり、それを読むとまるでジェットコースターに乗っているような、痛さがあります。

楽しんでいただきたいのは、そのジェットコースター的なダイナミズムのなかで人間がどう喜んだり悲しんだり、恨んだりしながら、生きて死んでいくか、というところでしょう。

蜷川さんがいつもシェイクスピアをやるときにおっしゃることですが、シェイクスピア劇には社会の最上層から最下層までがひとつの芝居のなかに入っている。『ヘンリー六世』はその極みで、王侯貴族から職人までの人々が活写され、まさに観どころ満載です。



松岡和子 Kazuko Matsuoka

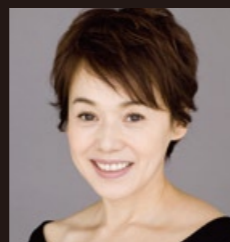
翻訳家、演劇評論家。著書に『すべての季節のシェイクスピア』（筑摩書房）、『快談シェイクスピア』（新潮文庫）、『シェイクスピア「もの」語り』（新潮選書）など、訳書に『くたばれハムレット』（ポル・ラドニック作 白水社）、『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』（トム・ストッパード作 劇書房）などがある。1996年から筑摩書房よりシェイクスピア作品の新訳刊行を開始。『から騒ぎ』『冬物語』が最新作。10月に『ヘンリー六世』刊行予定。SSS（彩の国シェイクスピア・シリーズ）企画委員会委員。

Cast 彩の国初登場・上川隆也と、大竹しのぶが競演



上川隆也

1989年より本年7月まで演劇集団キャラメルボックスに在籍し、数多くの作品に出演。95年NHKドラマ『大地の子』主演を皮切りに、映像でも活躍。近年の主な出演作に、舞台『ウーマン・イン・ブラック』『その男』『蛮幽鬼』（本年9月上演予定）、TVドラマ『白い巨塔』『功名が辻』『赤鼻のセンセイ』、映画『奥の城』『バコと魔法の絵本』『私は貝になりたい』など。蜷川幸雄演出作品には08年の『表裏源内蛙合戦』以来、2度目の出演である。



大竹しのぶ

1975年に映画『青春の門 筑豊編』でデビュー。その圧倒的な存在感から世代を超えた支持を受け続け、舞台、映画、TV、音楽等ジャンルを問わず相次いで話題作に出演し、主要な演劇賞を多数受賞。蜷川幸雄作品では、『メディア』『マクベス』『エレクトラ』『パンドラの鐘』に出演。近年の出演作は『ザ・ダイバー』（野田秀樹演出）『桜姫』（串田和美演出）『女教師は二度抱かれた』（松尾スズキ演出）『スウィーニー・トッド』（宮本亜門演出）など。

●●●● PLAY ●●●●

彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾『ヘンリー六世』

【日時】2010年3月11日(木)～4月3日(土) 全15公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【作】W. シェイクスピア 【演出】蜷川幸雄 【翻訳】松岡和子 【構成】河合祥一郎

【出演】上川隆也 大竹しのぶ / 高岡蒼甫 長谷川博己
たかお鷹 原 康義 山本龍二 横田栄司 塾 一久 木村靖司 石母田史朗
吉田鋼太郎 磯川哲朗 ほか

【チケット(税込)】

通し券 一般:S席19,000円/A席15,000円/B席11,000円/学生B席6,000円
メンバーズ:S席18,000円 ※メンバーズ割引はS席のみ

【発売日】一般:11月14日(土) メンバーズ:同封のプレオーダーシートをご覧ください。

※本公演は前編・後編あわせて1日通し公演、上演時間は約6時間の予定です(休憩除く)。通し券に残席がある場合に限り、2010年1月下旬より前編券・後編券の発売を予定しております。
※開演時間等の詳細は、決定次第、財団ホームページ <http://www/saf.or.jp> にてお知らせいたします。※本公演はメンバーズポイント対象外となりますので予めご了承ください。



勝村政信

俳優

蜷川幸雄

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

公開対談シリーズ第19回

NINAGAWA 千の目

蜷川作品にはなくてはならない存在の勝村政信さん。
今秋には蜷川演出による上演時間9時間の超大作に出演されます。
同じ埼玉出身で二ナガワスタジオ時代からの長い関係のお二人、
世代は違うものの戦友が再会したような和やかな対話となりました。

蜷川(以降N) 同じ埼玉県人で、僕のほうがちょっと東京に近い川口です。

勝村(以降K) 僕は蕨です。浦和北高校です。(拍手)

N 川口に40年。僕の時代はキューポラの町で、すごかったです。

K 僕のころも、あの辺に行くのがまだ怖かったです。ランニングシャツが真っ黒になっているおじさんたちがいっぱいいて、鎗物のおいがする。

N 勝村君は羞恥心と子供っぽさといういろいろなものが入りまじっている複雑な矛盾した人格です。時には少年っぽく見せ、時には不良中年に見せ、遊んでいる、若ぶって(笑)。そういうやんちゃ振り、時々逸脱したところが魅力だな。

K 初めて蜷川さんに会ったのが1985年ですから22歳ぐらいです。僕は蜷川さんの劇団に入団して芝居を始めましたが、そのころ蜷川さんはケログの宣伝に家族で出てらっしゃって、初めて

「衰えた自分を見せたくないという思いがある。それが緊張感を生む。そういう若い友人を持ったことは、幸せなことです」(蜷川幸雄)

蜷川さんとお会いしたときに、「ケログのおじさんだ!」と(笑)。それが第一印象です。

N 年1本か2本ぐらい商業劇場で演出をやっている時代だった。

K 昔は箱馬(木でできた箱の台)も投げましたよね。蜷川さんが物を投げるといのは伝説になっていますけれども、僕が見た一番大きいのは箱馬でしたね。

N そういう幸せな時代もありましたね。でも一番大きいのは、音響のテーブル。持ち上げようとしたけど、持ち上がらなかった(笑)。

9時間上演の超大作での役割

K 僕は前に「蜷川さんはどうしてこんなに演出が丁寧になったのですか」という質問をしたら、「イギリスの俳優と仕事をしたから」と。イギリス人は演出家と同じぐらい自分の役について考えてきたりするので、言葉で論破というか、言いくるめないと聞くのを聞かないですからね。

N きちんと説明して、怒るよりもまず納得させるように気をつけた。秋に上演する『コースト・オブ・ユートピア』のように、19世紀の革命についていろいろなことを語った芝居、本質的なことを考え、語り合っている演劇というものは、ちゃんと場所をとっておかないといけない。来年3月さいたまでもシェイクスピアの『ヘンリー六世』で8時間ぐらいの上演があります。ぜひ期待して、待っていてください。

K 『コースト・オブ・ユートピア』も9時間ですからね。

N 勝村君は其中でバクーニンという優秀なアジテーターで、芸術家で、借金ばかりしている、女が苦手なへんてこりんな人物を演じています。ぴったりですね(笑)。

K おもしろい役ですよ。こんな人が本当にいたんですね。

N 主人公の大金持ちとか、大地主の息子が勝村君です。ものすごく魅力的な奔放な少年です。それについての演技の野心はどうなの?

K 基本的に自分の役割はノイズだと思っています。バクーニンは行動力と何か人間的な魅力で持っていく。いつの間にか愛しながらも憎んでいるような不思議な役割なので、どう愛されようかなというのが僕の今回のテーマですね。でも、役をつくる途中で今日みたいにくらして人前で話すことはないですよ。だから、不思議な感じですよ。

悪口を言う俳優はいい芝居をする?

K 僕は蜷川さんのところを途中でやめて、今はまた仲よく戻りましたけれども。

N 勝村君たちとは半分けんかをし、言ってみればやつらに衰えた

自分を見せたくないという思いがある。それが緊張感を生む。そういう若い友人を持ったことは、幸せなことだと思っています。

K 人の悪口を言っている俳優さんは結構いい芝居をしますよね。

N 言った手前、やらなくてはいけないということはあるな。

K やはり人の悪口を正確に、じょうずに言える人はいいですね。今のただいい人は、いい人みたいな芝居をしてしまうからぜんぜん面白くない。悪いことを演じた時に、それを嫌だったとか、気分が悪いという褒め方もあるということを認識するのは、とても大切なのではないかと。今いいこと言っていますね(笑)。

N 問題が多い俳優はいい俳優が多い。ただ、問題が多い俳優ばかりが集まった芝居は、めちゃくちゃになる。性格の悪い俳優は大体3人いればいい。だから今度は、勝村君でしょう、あと2人分だけは抱え込む余地がある。

サッカー仲間がビビッドに反応する挑戦

N すべて平均化された時代になると、自分たちの体験を一体どのようにくぐりながら、すぐれた俳優としての体験を得ることができるのか。また新しい困難に今の若者は出会っているのではないかと思います。

K そうですね。今は演劇も歴史が分断されています。過去のことを知らずに、恥ずかしげもなく過去のことをやっていて、過去の事象をふまえて演劇と組み合わせることもしない。

N そうだね。それは日本の若い演劇についても同じであって、世界状況の中に自分を置いてみるとか、確かなまなざしの中に自分を置いてみる。どうぞ9時間の芝居に来てください。

K 若いサッカーの仲間に「今度9時間の舞台やるんだよ」と言ったら「マジっすか? 俺、行きたいです」とチケットを買ってくれた。若くて探究心がゆたかな奴は反応がいいです。演劇のチケットは間違いなく心のサプリメントです。蜷川さんのスタッフは世界でも5指に入ります。僕らがおられるようなスタッフが集まって、2カ月のエネルギーが凝縮した空間ですから必見です。

N 今日はどうもありがとう。



Profile

勝村政信 かつむら まさのぶ

俳優。埼玉県出身。二ナガワスタジオを経て劇団第三舞台に入団し、1992年退団まで主要メンバーとして活躍。以降、数々の舞台、TVドラマ、CM、ナレーションと幅広く活躍している。近年の主な出演作に、蜷川演出作品では「天保十二年のシェイクスピア」「白夜の女騎士」「コロレイトナス」「表裏源内蛙合戦」、他にTV「監査法人」「コード・ブルー」「瞳」「スマイル」、映画「HERO」「ビルと動物園」「禅ZEN」など。現在、蜷川演出の舞台「コースト・オブ・ユートピア」に出演中。

Photo: 宮川舞子 構成: 中田満之

偶然と即興が織りなす ローザスの新作『ツァイトウング』

来日のたびに新たな“ローザス・スタイル”で観る者の感性を揺さぶるローザス。果たして今回、2008年の新作『ツァイトウング』はどんなパフォーマンスが繰り広げられるのか、その創作の秘密に迫る。



©Herman Sorgeloos

『ZEITUNG』

Choreography by Anne Teresa De Keersmaeker

偶然と構造 —— ケースマイケルの戦略 文=尼ヶ崎 彬 [舞踊評論家]



1983年、ケースマイケルは『ローザス・ダンス・ローザス』でダンス界を驚かせた。たった4人の女性ダンサーが椅子に座ったまま同じような動きを繰り返す。そんなダンスで観客に息詰まるような緊張と、目を離すことのできない集中をもたらしたからだ。いくつかのシンプルな動きがあるときは4人同時になされ、あるときは時間差をおいて繰り返される、その構造がバッハのフーガのように厳密に計算されていた。この振付の原理をケースマイケルは「対位法」と呼んだ。以後彼女の作品はしばしば「幾何学」とか「数学」といった言葉で語られることになる。

しかしケースマイケル作品の魅力は冷たい幾何学だけにあるのではない。清潔な抽象図形にノイズのように絡みつく具体的身体が不意について観客の視線を捉えるのである。たとえば『ローザス・ダンス・ローザス』において、疾走するダンスが一時停止した合間にダンサーたちの間で交わされる微笑みや頷き、ユニゾンで踊っているにもかかわらず長さが違うために揺れ方が違ってしまふ髪、性差を感じさせない運動の中でふと脚を組んだときに現れてしまう「女らしさ」等々。潔癖な抽象作品を目指す作家なら排除しそうなジェンダー的要素さえケースマイケルは取り込もうとする。来日した彼女に観客が「なぜ踊りにくいのにハイヒールを履かせるのか」と聞いたとき、ケースマイケルは「だってセクシーでしょう」と答えたものだ(同じ質問にピナ・バウシュは「うちのダンサーたちはハイヒールで踊るのが好きです」と答えたが、両者の方法論の違いがよく表れている)。

じつはダンサーの身体そのものが、すでに幾何学的振付をはみ出す表現性を持っている。ケースマイケルはそのことに自覚的であるだけでなく、むしろ利用しようとしている。たとえば『死の彼方 永遠の愛』で2人の女性ダンサーが同時に踊るシーンがある。ひとりには長身瘦躯の美女であり、もうひとりには背が低く小太りである。すると振付は同じであるのに印象は全く異なるものになる。それをわざと並べて見せるのは、振付の見事さよりも、2人の印象の違いが生み出すシニカルな効果こそがこのシーンの狙いだということである。振付が楽譜のように不変な設計図だとすれば、ダンサーの体型は公演のたびに変わるかもしれない外装材である。ケースマイケルはいわばあてにならない偶然を作品の一部として計算しているのだ。

新作『ツァイトウング』はこの偶然という異物を「即興」という方法でより戦略的に組み込もうとしている。もともとケースマイケルは即興的に生まれた所作の断片を数学的アルゴリズムにしたがって変形・展開・結合して振付をすることがあった。今回はさらに積極的に即興を作品に組み込むために、アメリカからポストモダンダンス時代の舞踊

家デボラ・ヘイを招いた。2人は対照的な振付家である。ケースマイケルによれば「私はいつも時間と空間におけるエネルギーの戦略的組織化に取り組んでいるのに、彼女は何よりも動きの知覚に専念している」のだ。即興舞踊とは、まず自己の内部と外部とを知覚し、そのとき可能な選択肢から瞬間ごとに動きを選び直して行く作業である。それは変化がさらに変化を生み出す偶然の連鎖とも言える。

稽古場で身体も人生も異なるローザスの9人のダンサーが即興で踊り、それを素材にケースマイケルが振付を決定していった。それは偶然の産物を組織化して不変の構造に組み込んでいく作業でもあった。だがケースマイケルは細部まで振付を決定せず、公演当日での即興の余地を残したという。それは身体がいかに偶然を孕もうと、不変の構造を確保したという自信の表れかもしれないが、逆にこの作品は日々偶然を生きる個々の身体こそが主役であると見ることもできるだろう。

私たちは毎日「同じ」新聞を読むけれども、その記事は日々変わっている。昨日の新聞は「古新聞」であって、もはや読むに値する「新聞」ではない。『ツァイトウング (Zeitung)』とはドイツ語で「新聞」という意味である。



©Dany Willems

Profile

アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
ローザス芸術監督。モリス・ベジャールのムードラ(ブリュッセル)、ティッシュ・スクール・オブ・アーツ(NY)で学ぶ。1983年、ムードラで学んだ4人の女性ダンサーでローザスを結成し、『ローザス・ダンス・ローザス』でデビューを飾る。音楽と身体の構造的関係を探索しつつ常に刺激的な作品を発表し続け、名実共に世界をリードする。2004年、細川俊夫作曲、大野和士指揮によるオペラ『班女』の演出を手がけた。『ドラミング』、『レイン』等、これまでのさいたま公演はいずれも大きな反響を呼んだ。

●●●● DANCE ●●●●

ローザス『ツァイトウング Zeitung』

【日時】11月27日(金) 開演 19:30 / 28日(土) 開演 16:00
29日(日) 開演 16:00
※27日公演終了後、アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルによるポスト・トークあり。

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『ツァイトウング Zeitung』(2008年初演)

【コンセプト】アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル アラン・フランコ

【振付】アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル 【出演】ローザス(9名) アラン・フランコ(ピアノ)

【チケット(税込)】 好評発売中

一般:S席6,000円/A席5,000円/学生A席3,000円
メンバーズ:S席5,400円/A席4,500円【ナイン・フィンガー】とのセット券
S席9,000円/A席8,000円/学生A席5,000円



2010年2月に彩の国さいたま芸術劇場で上演される『ナイン・フィンガー』は、

広い空間の中で、2人のパフォーマーによる断片的な言葉と身体、

ごく簡素な舞台装置といったきわめて限られた手段によって、

アフリカにおける黒人少年兵士が経験する極限的な暴力を描き出すことに成功した、

奇妙な、しかし強い力を持つ作品である。

池田扶美代、ベンヤミン・ヴォルドンクとともに創作にかかわったアラン・プラテル氏に、

作品の出発点、意図、創造プロセスについて尋ねた。



心底揺さぶられた小説から、 「欠如」の物語は始まった

取材・文=藤井慎太郎 [演劇研究]

■ —まずは、このプロジェクトのきっかけについて教えてください。

ローザスの池田扶美代さんから、ベンヤミン・ヴォルドンクと新しい創作の準備をしているのだが、私にも参加して欲しいという提案がありました。扶美代さんのことは、ずっと早い時期からすばらしいダンサーだと思ってきました。私たちはいつも、いつかは一緒に仕事がしたいと話していましたから、すぐに喜んで引き受けたのです。ベンヤミンは同じベルギーのフランダース地方出身のきわめてオリジナルな仕事をしている俳優・パフォーマーです。すっかり意気投合して3人でのプロジェクトが始まったのです。

ただ、この時点では作品の内容はほとんど決まっていなかった。時々、会っては話をしたり、即興をしたりしてはいましたが、ほとんど白紙に近い状態でオフィシャルな稽古が始まったのです。その初日に、ベンヤミンがウヰディンマ・イウエアラの『ピース・オブ・ノー・ネイション(国を持たない野獣たち)』という、アフリカの黒人少年兵を描いた小説を持ってきたのです。限られた語彙と規則破りの文体によるシンプルな英語で、言葉で表すことができないほどの暴力が描かれている本です。私たちはみんな心底から揺さぶられ、この本を核として作品づくりをすることにしたのです。

■ —「ナイン・フィンガー」というタイトルにはどんな意味が込められているのでしょうか。

この題名はベンヤミンが書いた詩のタイトルなのです。とても多くの意味がこめられているのですが、たとえば、2つの手には10本の指があるはずですが、ここには9本の指しかなく、さらにフィンガーも複数形ではなく、単数形のままになっています。何か失われて欠けているという、欠如、不完全さの状態です。

■ —この作品は、タイトルだけでなく構造の上でも、物語を再現することによって空隙を埋めてしまうのではなく、むしろ核心となるものの欠如や不在、物語の不可能性をあえて強調しつつ、それでもなお観客の心に斜めから、しかし直接に切り込むような、奇妙な力があると思います。実際にはどのように作品づくりは進んだのでしょうか？

最初は1ヶ月に1度ほどみんなで集まって、話し合いを重ねました。それから実際の稽古場で、私が自分のカンパニーといつも仕事するときと同じように、課題を与えて表現してもらっては、それらの相互のバランスを私が調整しながら、場面を組み立てていきました。

アフリカにおける少年兵が経験する、語るができないほどの暴力を、いかにして私たち、ヨーロッパに住むベルギー人と日本人が再現、表象することができるのか？ いかにして、この題材を作品化するにあたって、適切なポジションを見つけれられるのか？ それをもっと重要で困難な問いでした。アフリカの黒人少年兵士の物語を代わりに「再現」したり、作品の素材として「利用」することなく、このすばらしい本とその作者に対して最大限の敬意を払いたかったからです。



Profile

アラン・プラテル

1956年、ゲント生まれ。マイムやバレエを学んだ後、カナダ人振付家パーラ・ピアスのワークショップを受講。1986年、Les Ballets C. de la B.を結成。「パッパと憂き世」、「ウルフ」等の生演奏を用いたダンス作品や演劇作品で高く評価されている。不完全で傷つきやすい人間を作品のスタート地点に、ユーモアや活力、一見した無秩序を通じて際立った作品を作り続ける。

photo: 青柳 聡

■ —完全性や完成をあえて目指さず、欠如や不在という描き得ないものを描こうとする作品の「完成」は、どのようにして確信されたのでしょうか？

どの時点で作品が完成したのか、プロセスのただなかにいた私たちにははっきりとはわかりませんでした。稽古を見に来ていた友人たちのポジティブな反応から、この作品が人々に見せられる水準に達したことをもっぱら実感したのですが、それでも、初演の夜になってもまだ作品の出来について私は強い不安を感じていました。初めての経験です。その後、ツアーを重ねるごとに、ほかの観客からもとても力強い反応が得られて、自分たちが間違っていなかったことは確信できたのですが。パフォーマーの2人も、主題の暴力性ゆえに、ときに極度に苦しい経験をしてきました。これは、人間の「痛み」という普遍的な主題をめぐる、あらゆる意味で、ほんとうに崩れやすいバランスの上に成立している作品です。そして、そのきわどいバランスを見つけ出すことが、私の仕事だったのです。

●●●● DANCE ●●●●

池田扶美代+アラン・プラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク 『ナイン・フィンガー Nine Finger』

日時] 2010年2月6日(土) 開演 16:00 / 7日(日) 開演 16:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】 『ナイン・フィンガー Nine Finger』 (2007年初演)

【構成・演出・振付・テキスト】 池田扶美代 アラン・プラテル ベンヤミン・ヴォルドンク

【出演】 池田扶美代 ベンヤミン・ヴォルドンク

【チケット(税込)】 好評発売中

一般:4,000円 学生:2,500円 メンバーズ:3,600円

ローザス「ツァイトゥング」とのセット券
S席9,000円 / A席8,000円 / 学生A席5,000円



Michie Koyama
小山実稚恵

© Kazuo Matsuura

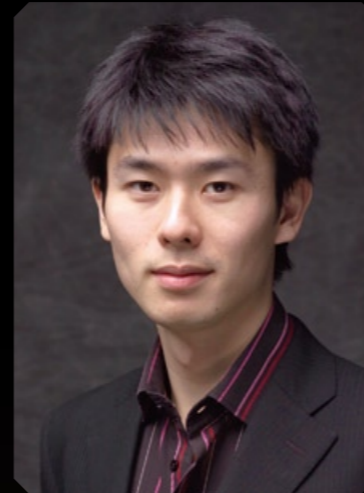


Kenichi Furube
古部賢一

© Koichi Kitayama



Fuminori Shinozaki
篠崎史紀



Kotaro Fukuma
福間洸太郎



Les Vents Français
レ・ヴァン・フランセ

© Masanori Hotta



Yu Kosuge 小菅 優

© Steffen Jánicke



Ayako Uehara
上原彩子

© 三浦興一



Seiji Ozawa
小澤征爾

© Shintaro Shiratori



New Japan Philharmonic
新日本フィルハーモニー交響楽団

© 三浦興一



Kenichi Nakagawa
中川賢一

Yasushi Toyoshima
豊嶋泰嗣



Radek Baborák
ラデク・バボラーク



Sièna Brass 5
シエナ・ブラス5

© Kenji Kazama



Kaori Muraji
村治佳織

© Kiyotaka Saito



Francesco Tristano Schlimé
フランチェスコ・トリストアーノ・シュリメ

© Aymeric Giraudel

Classic Season 2009-2010

クラシック・シーズン ラインナップ

珠玉の音楽にひたる至福のひとつき

季節の深まりとともに彩の国がお届けするクラシックのラインナップがそろった。
秋からクリスマス、そして年があけての2009-2010シーズン、開館15周年にふさわしい
多彩なプログラムでクラシックを堪能したい。

彩の国の音楽ホールでクラシックの醍醐味を

ピアノシモの細部はもちろん、演奏者の息づかいまでも体感でき、音楽の真髄にふれられる、604席のシューボックス型ホール。そのシートに身をすくめ、名曲に、名演奏にじっと聴き入るしあわせ。開館15周年の秋から年明けにかけてのシーズンは例年にも増して充実したプログラムが組まれている。

文=片桐卓也(音楽ライター)



ピアノ、ギター、木管アンサンブルと、多彩な公演に酔いしれる

開館15周年を迎えるこの秋からのシーズンには、クラシックのコンサートのラインナップも非常に充実したものとなっている。まずピアノから順を追って紹介していこう。

小山実稚恵のリサイタルはすでに本誌のインタビュー等でも紹介したように、開館15周年に合わせた特別プログラムで、小山の代表的なレパートリー(シューマン、ショパン、リスト、スクリャービン、ラフマニノフ)が並ぶ。彼女のこれまでの演奏会を思いだしながらいきたいラインナップだ。

「ピアノ・エトワール・シリーズ」は福間洸太郎とフランチェスコ・トリスターノ・シュリメ。まさに21世紀を担うにふさわしい若手が登場する。福間は1982年生まれで、現在ベルリン在住。都立高校からヨーロッパへ留学するという異色の経歴を持ち、クリーヴランド国際ピアノコンクールで日本人として初めて優勝するなど、欧米での評価が高いピアニストだ。今回は3年ぶりに音楽ホールへ登場するが、ベートーヴェンの後期とスクリャービンなどロシア物を合わせたプログラムがユニークである。シュリメはまったく未知の才能。あのプレトニョフが高く評価しているということで注目される。1981年ルクセンブルク生まれで、バロックからコンテンポラリー作品まで、非常に幅広いレパートリーを持っている他、クラブ・ミュージックやテクノなど、クラシック以外のジャンルでも活動をしている。こういう新しいタイプの演奏家はヨーロッパなどには居るのだが、日本ではお目にかかれないタイプ。それだけに彼の演奏がどんなものなのか、期待が高まっている。

さらに2010年3月には「シリーズ 小菅優の現在」がスタートする。小菅は1983年東京生まれながら、9歳でドイツに渡り、そこで研鑽を積み、10代から注目を集めてきたピアニストだ。日本での演奏活動も最近はかなり幅広く展開しており、宮崎国際音楽祭でデュトワと共演したり、小澤征爾指揮の水戸室内管弦楽団との共演でメンデル

ズーンのピアノ協奏曲を録音したりと、多くの巨匠指揮者から高く評価されている。今回の演奏会は彼女の演奏家としての幅の広さを示すものとして、室内楽からスタートする。ホルンの名手ラデク・パボラーク(ベルリン・フィル首席)とヴァイオリンの豊嶋泰嗣を迎えてブラームスのホルン3重奏曲を演奏する他、非常に豪華なラインナップとなっている。彼女の室内楽奏者としての素晴らしさを何度も味わっている筆者は、この演奏会が個人的に非常に楽しみである。

ピアノ以外の器楽では、ギターの村治佳織のリサイタルと、フランス最高の奏者を集めたアンサンブル「レ・ヴァン・フランセ」の公演がある。ギターの村治に関しては、もう多くを説明する必要はないだろう。最近ではスペインに居を移し、音楽的な感性にさらに磨きをかけている。今回のリサイタルでは特に力を入れているバッハの作品を初め、ショパン、シューマンなどの編曲作品に、メルツという面白いプログラムが組まれている。ピアノにぴったりとされる音楽ホールだが、ギターにも最適のサイズで、彼女の美しい音が十分に堪能出来るはずだ。

「レ・ヴァン・フランセ」も多くを説明する必要のないスーパー・アンサンブルである。フルートのエマニュエル・バユ(ベルリン・フィル首席)、クラリネットの名手ポール・メイエ、オーボエの天才フランソワ・ルルーなどを擁する世界最高の木管アンサンブルとして、日本に来るたびにオドロキの演奏を繰り広げている。どの奏者もソロでも活躍しているだけあって、プログラムも多彩だが、ブーランクの6重奏曲などは彼らの独壇場と言えるだろう。近年では吹奏楽が中高生の間で盛んとなり、レ・ヴァン・フランセの演奏会にも若い聴き手の姿が目立つ。日本ではピアノやヴァイオリンよりも、最近では管楽器の方が演奏者の数が多くなっているようだ。そんな若者たちの神となっているのが、このアンサンブルなのである。

PIANO

10/3 小山実稚恵 ピアノ・リサイタル



©Katsuo Sakayori

こやま みちえ (ピアノ)
1982年チャイコフスキー第3位、85年ショパン第4位と日本人として初めて2大国際ピアノコンクールに入賞。2006年からは年2回ずつ12年間・24回リサイタルシリーズ「小山実稚恵の世界」に取り組み注目を集める他、ソロ・室内楽・オーケストラとの共演をはじめ、シリーズの企画・演奏でも高い評価を得ている。2010年1月にはシンフォニア・ヴァルソヴィアとの新CD「ショパン:ピアノ協奏曲第1番&第2番(仮題)」をリリース予定。05年度文化庁芸術祭音楽部門の大賞、05年第7回ホテルオークラ音楽賞受賞。

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】10月3日(土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ショパン:バラード第1番 卜短調 作品23
ラフマニノフ:ピアノ・ソナタ第2番 変イ長調 作品36 ほか
【チケット(税込)】好評発売中
一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円
メンバーズ:S席3,600円/A席2,700円 ※A・学生A席予定枚数終了 S席残席僅少

11/28 ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.11 福間 洸太郎



ふくま こうたろう (ピアノ)
1982年東京生まれ。都立武蔵高校卒業後ヨーロッパへ留学し、パリ国立高等音楽院、ベルリン芸術大学、コモ湖国際ピアノアカデミーにて学ぶ。20歳でクリーヴランド国際ピアノコンクール優勝(日本人初)及びショパン賞受賞。ニューヨーク・リンカーンセンターでデビュー以来、全米、ヨーロッパ、南アフリカ、日本で定期的に演奏する。彩の国さいたま芸術劇場へは、2006年の「ピアニスト100」シリーズから2回目の登場。現在ベルリン在住。

福間洸太郎、「ピアノ・エトワール」を語る
「ピアニスト100」以来、3年半ぶりに「彩の国さいたま芸術劇場」で弾かせていただけることを光栄に思うと同時に、大変意気込んでいます。今回は、前半でドイツもの、後半でロシアものを取り上げました。バッハの美学・哲学を顕著に表す《フーガの技法》と、人間的感情の世界と神聖で崇高な世界が描かれているベートーヴェンの《ピアノ・ソナタ第31番》は、いずれも作曲家の後期の作品で、その深みを味わっていただきたいです。後半は、民族主義者としてロシア・ロマン派音楽の骨格を形成したバラキレフと、始めはその影響を受けつつも徐々に独自の神秘的な世界を作りだしたスクリャービンです。二人のロシア人作曲家の個性を、ぜひ聴き比べてください。

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】11月28日(土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 作品110 バラキレフ:イスラメイ ほか
【チケット(税込)】好評発売中
一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円 メンバーズ:S席3,150円

2010/2/20 ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.12 フランチェスコ・トリスターノ・シュリメ



©Aymeric Giraudet

Francesco Tristano Schlimé (ピアノ)
1981年ルクセンブルク生まれ。王立ブリュッセル音楽院、パリ市音楽院を経て、ジュリアード音楽院に留学。2000年プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル交響楽団でアメリカ・デビュー。04年オルレアン20世紀音楽国際ピアノコンクール優勝。ヨーロッパ・コンサートホール・オーガニゼーション07-08「ライジング・スター」アーティストとして、ヨーロッパ各地でリサイタルを開催。即興演奏や作曲も手掛け、幅広いジャンルで才能を発揮している。

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】2010年2月20日(土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ドビュッシー:前奏曲集 第1巻 クレイグ(シュリメ編曲):テクノロジ ほか
【チケット(税込)】
一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円 メンバーズ:S席3,150円
【発売日】一般:10月10日(土) メンバーズ:10月3日(土)

OTHER

10/24 村治佳織 ギター・リサイタル



©Kiyotaka Saito

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】10月24日(土) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
※予定枚数終了いたしました

12/5 レ・ヴァン・フランセ



© Masanori Hotta

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】12月5日(土) 開演 15:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【出演】
エマニュエル・バユ(フルート)
フランソワ・ルルー(オーボエ)
ポール・メイエ(クラリネット)
ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン)
ジルベール・オダン(バスーン)
エリック・ル・サージュ(ピアノ)
※予定枚数終了いたしました

2010/3/20 シリーズ 小菅 優の現在 Vol.1 デュオ & トリオ



© Steffen Jänicke

こすげ ゆう (ピアノ)
高度なテクニックと美しい音色、深い楽曲理解と若さ感性で現在最も注目を浴びている若手ピアニストの一人。2005年カーネギーホールでのリサイタルでニューヨーク・デビュー、06年ザルツブルク音楽祭でリサイタル・デビュー、09年には小澤征爾指揮水戸室内管弦楽団と共演するなど国内外でその活躍の場を広げている。これまでにソニーより8枚のCDをリリースしており、いずれも好評を博している。



ラデク・パボラーク Radek Baborák (ホルン)
1976年チェコに生まれる。94年、ミュンヘン国際コンクールで優勝。それ以来、ヨーロッパ、アメリカなど各地で活発な演奏活動を展開。「完璧な演奏」、「ホルンの神童」と評される世界的なホルン奏者。これまでチェコ・フィル、ミュンヘン・フィル、バンベルク響のソロ・ホルン奏者を兼任。2003年からはベルリン・フィルのソロ・ホルン奏者に就任。現在の使用楽器は、「アレキサンダー103」。



豊嶋泰嗣 とよしま やすし (ヴァイオリン)
1986年、桐朋学園大学卒業と同時に新日本フィルのコンサートマスターに就任し楽壇デビュー。その後もサイトウ・キネン・オーケストラ等でコンサートマスターを務め、指揮者、オーケストラからの信頼も厚い。現在、新日本フィルと兵庫芸術文化センター管弦楽団のコンサートマスターを兼任。ソリストとして、また室内楽でも活躍している。使用楽器は1719年製 アントニオ・ストラディヴァリウス。

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】2010年3月20日(土) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【出演】小菅 優(ピアノ) ラデク・パボラーク(ホルン) 豊嶋泰嗣(ヴァイオリン)
【曲目】シューマン:アダージョとアレグロ 変イ長調 作品70
シューマン:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 第1番 1短調 作品105
ブラームス:ホルン3重奏曲 変イ長調 作品40 他 ほか
【チケット(税込)】
一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円
メンバーズ:S席3,600円/A席2,700円
【発売日】一般:11月1日(日) メンバーズ:10月24日(土)

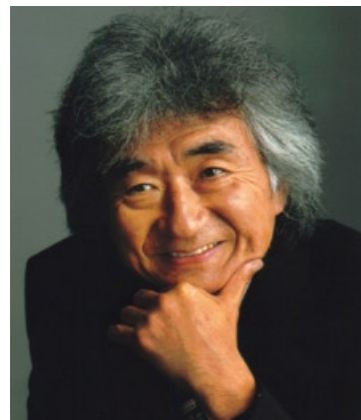
小澤征爾、12年ぶりの埼玉会館

オーケストラの魅力をあますところなく伝えるホールとして知られる埼玉会館。

今シーズン、聴衆をうならせるのは、小澤征爾&新日フィル、

そして華やかさにつつまれたニューイヤー・コンサートは例年とはひと味違ったフレッシュな演奏で年明けを飾る。

12/8 小澤征爾 & 新日本フィルハーモニー交響楽団



おざわ せいじ (指揮)
齋藤秀雄、カラヤン、バンスタインに師事。北米の主要オーケストラのポストを歴任後、1973年から29年間、ボストン交響楽団の音楽監督(タンブルウッド音楽祭芸術監督は1970年より)を務めた。2002年秋からは、ウィーン国立歌劇場の音楽監督に就任、現在もその任にある。日本においては、新日本フィル、水戸室内管を定期的に指揮。また、1992年からは、国際音楽祭「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」を開催。更に2000年より、若い音楽家の教育を目的に、小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトを開始。

© Shintaro Shiratori



© 三浦興一

新日本フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)

1972年指揮者・小澤征爾のもと楽員による自主運営のオーケストラとして創立。97年すみだトリフォニーホールを本拠地とし、定期演奏会のほか地元を根ざした演奏活動も特徴。2003年クリスティアン・アルミンクが音楽監督に就任。06年(火刑台上のジャンヌ・ダルク)で第3回三菱信託音楽賞奨励賞受賞。09年「ハイドン・プロジェクト」(F.ブリュッヘン指揮)で絶賛を博す。メディアでも「日本のオーケストラ新御三家のひとつ」として紹介されている。http://www.njp.or.jp/



上原彩子 うへはら あやこ (ピアノ)
3歳よりヤマハ音楽教室に、1990年よりヤマハマスタークラスに在籍。第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第一位を獲得。ベルギー、インバル、ロストロポーヴィチ、ルイズ等国内外の巨匠と共演、高く評価されている。2008年第18回新日録音楽賞フレッシュアーティスト受賞。

© 三浦興一

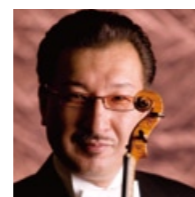
●●●● MUSIC ●●●●
【日時】12月8日(火) 開演 19:00 【会場】埼玉会館 大ホール
【出演】小澤征爾(指揮) 上原彩子(ピアノ) 新日本フィルハーモニー交響楽団
【曲目】ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第1番 八長調 作品15
ブルックナー:交響曲第3番 二短調「ワグナー」
【チケット(税込)】
一般:S席14,000円/A席12,000円/B席9,000円/学生B席4,000円
メンバーズ:S席12,600円/A席10,800円/B席8,100円
※予定枚数終了いたしました

なんと言っても注目されるのが「小澤征爾&新日本フィルハーモニー交響楽団」の演奏会だろう。小澤が埼玉会館に登場するのは12年ぶりというから、貴重な演奏会になりそうだ。現在ウィーン国立歌劇場の音楽監督に就任中の小澤は、日本ではサイトウ・キネン・フェスティバルと水戸室内管交響楽団でも活躍しているが、新日本フィルハーモニーと共演する回数は次第に少なくなっている。それだけに埼玉会館でこのコンビを聴くチャンスというのは、かなりレアなことになる。

今回の演奏曲目は、上原彩子をソリストに迎えたベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番と、ブルックナーの交響曲第3番。上原はチャイコフスキー国際コンクールのピアノ部門の優勝者(現在のところ日本人唯一)として活躍を続けている。情熱溢れる彼女の演奏と、小澤のやはり熱を帯びた指揮が重なって熱演が生まれそうだ。すでに70歳を過ぎたが、いまでも新鮮な音楽を作り続けている小澤。ブルックナーは多くの指揮者がその最後の時期に取り上げている重厚な作品だが、小澤のアプローチは極めて音楽的に正攻法なので、この作品の魅力がよく伝わってくるだろう。ともあれ12年ぶりの演奏会は売り切れ必至であることは間違いない。

埼玉会館での恒例となった「ニューイヤー・コンサート」。2010年はウィーン・MARO・アンサンブルという、NHK交響楽団コンサートマスター・篠崎史紀とN響メンバーによる演奏会である。ランナーやヨハン・シュトラウス2世が書いたウィーンの音楽を、N響を支える素晴らしいメンバーが集まって演奏する。MAROとはコンサートマスター・篠崎のあだ名。篠崎自身はウィーンで音楽を学んだので、ウィーンの音楽独特の雰囲気を知っている。彼のリードによって、フレッシュな演奏が繰り広げられることに期待しよう。

2010/1/17 埼玉会館ニューイヤー・コンサート ウィーン・MARO・アンサンブル ～篠崎史紀とN響メンバーによるウィーンの調べ～



しのざき ふみのり (ヴァイオリン)
3歳から父・篠崎永育によってヴァイオリンの手ほどきを受ける。高校卒業後ウィーンに渡りT.クリスティアン、L.ギトリス等に師事。帰国後、群馬交響楽団、読売日本交響楽団のコンサートマスターを経て、97年NHK交響楽団にコンサートマスターとして入団。96年から東京ジュニア・オーケストラ・ソサエティ音楽監督を続けている他、WHO国際医学アカデミー評議員を務める。その風貌から「まる」の愛称で親しまれている。

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】2010年1月17日(日) 開演 15:00 【会場】埼玉会館 大ホール
【出演】ウィーン・MARO・アンサンブル
篠崎史紀(第1ヴァイオリン) 白井篤(第2ヴァイオリン) 佐々木亮(ヴィオラ)
木越洋(チェロ) 西山真二(コントラバス) 神田寛明(フルート)
横川晴児・山根孝司(クラリネット) 日高剛(ホルン)
【曲目】J.ランナー:シェンブルンの人々 J.シュトラウスII:美しく青きドナウ、春の声ほか
【チケット(税込)】
一般:S席4,000円/A席3,000円/B席2,000円/学生B席1,000円
メンバーズ:S席3,600円/A席2,700円
【発売日】一般:10月3日(土) メンバーズ:9月26日(土)
※加藤英弘

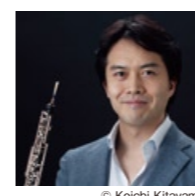
気軽に、ご家族で、音楽の世界が広がる

他にも楽しい演奏会がいくつか用意されている。まず埼玉会館のランチタイム・コンサートにはオーボエ奏者の古部賢一が登場する。新日本フィルの首席オーボエ奏者として、あるいはサイトウ・キネン・オーケストラのメンバーとしても活躍する古部は、オーボエの美しい音色を存分に生かした演奏で、聴き手を楽しませてくれる。ランチタイム・コンサートは演奏時間が約1時間弱なので、気軽に楽しむことができるし、オーボエの名曲の他に、エルガーの《愛のあいさつ》などポピュラーな作品も演奏される。その軽快で美しいオーボエの音色に癒されたい。

彩の国音楽ホールでは、シエナ・プラス5による「アフタヌーン・クリスマス・コンサート」が行われる。日本でも珍しいプロのウインド・オーケストラの奏者による金管五重奏で、プログラムもクリスマス・シーズンにちなんだ作品ばかりだ。見事なテクニックも持ち、同時に楽しむことを知っているシエナの面々による演奏会は、きっと素敵なおプレゼントになるはずだ。

そして、「彩の国さいたま芸術劇場ファミリー・コンサート」にピアニストの中川賢一が登場する。演奏会の前日にはピアノ・ワークショップも開催され、ピアノの魅力を分かりやすく、楽しく教えてくれるイベントになりそう。演奏会のプログラムは未定だが、才人・中川ならではのユニークなプログラムが登場するのではないだろうか。

10/27 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第9回 古部賢一(新日本フィル首席) オーボエ・リサイタル



ふるべ けんいち (オーボエ)
東京藝術大学在学中に新日本フィル首席奏者に就任。これまで共演したメユウイン、ロストロポーヴィチ、朝比奈隆、小澤征爾など多くの名匠から高い評価を受け、ソリストとして国内外の数多くのオーケストラと共演。リサイタルや室内楽にも積極的に取り組み、バロック演奏でも高い評価を得ている。第10回出光音楽賞受賞。東京音楽大学、昭和音楽大学非常勤講師、兵庫芸術文化センター管弦楽団アシエイト・プレーヤー。

© Koichi Kobayashi

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】10月27日(火) 開演 12:10 (終演予定13:00) 【会場】埼玉会館 大ホール
【曲目】エルガー:愛のあいさつ サン＝サーンス:オーボエ・ソナタ 二長調 ほか
【チケット(税込)】好評発売中 全席指定1,000円

光の庭プロムナード・コンサート

開演14:00 (14:40終演予定) 11/14のみ15:00終演予定
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(11/14のみ音楽ホール) 【料金】入場無料



光庭を囲んだ情報プラザで、土曜の午後開催している「光の庭プロムナード・コンサート」。普段は演奏会に足を運ぶ機会がない方にも素敵な音楽に耳を傾けていただきたいと、オープン・スペースで行っています。また、「ホールでも聴いてみたい!」というお声を受けて、11月の埼玉県・県民の日に音楽ホール版をお届けします! 劇場のボジティブ・オルガン(移動可能なパイプオルガン)と歌や楽器が奏でるハーモニーをお楽しみ下さい。

© 加藤英弘

12/23 彩の国さいたま芸術劇場 アフタヌーン・クリスマス・コンサート シエナ・プラス5 (金管五重奏)



シエナ・プラス5
1990年に結成された、日本を代表するプロフェッショナルのウインド・オーケストラ「シエナ・ウインド・オーケストラ」の実力派金管楽器奏者によるブラスアンサンブル。都内でのレギュラー・コンサートをはじめ、フェスティバルやイベントなど全国各地でコンサートを開催しているほか、楽器クリニックなど後進の指導にも力を入れており、様々な活動を展開。メンバー達の個性溢れるパフォーマンスや軽妙なトークで高い人気を得ている。
※写真の出演者は変更になる場合がございますので、ご了承ください。

© Kenji Kazama

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】12月23日(水・祝) 開演 14:00 (終演予定15:00)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】J.S.バッハ=グノー:アヴェ・マリア、バーリン:ホワイト・クリスマス ほか
【チケット(税込)】全席指定1,000円
【発売日】一般:10月3日(土) メンバーズ:9月26日(土)

2010/3/7 彩の国さいたま芸術劇場ファミリー・コンサート 中川賢一(ピアノ)



なかがわ けんいち (ピアノ)
桐朋学園大学音楽学部卒業。ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科最高課程、特別課程をそれぞれ優秀、首席の成績で修了。1997年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。帰国後、数々の音楽祭、NHKFMに多数出演するなど、国内外でソロ、室内楽奏者、指揮者として活動するほか、ダンスや他分野とのコラボレーションや企画プロデュースも行う。お茶の水女子大学、桐朋学園大学で後進を指導。2001年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。

●●●● MUSIC ●●●●
【日時】2010年3月7日(日) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【チケット(税込)】大人1,000円 子ども(3歳~中学生)500円
【発売日】一般:11月28日(土) メンバーズ:11月21日(土)
※前日に、ピアノの秘密まる分りの関連ワークショップあり(チケット購入者のみ/事前申込み制)

Lineup

こちらの公演には年齢制限はありません。

9月26日(土) 南ドイツの秋~動物たちと共に~
【出演】川越聡子(オルガン) & 廣海史帆(バロック・ヴァイオリン)
【曲目】J. バッヘルベル/目覚めよ、わが心よ 他

11月14日(土) 県民の日スペシャル 秋の終わりに ~心をほくく音楽~
【出演】徳岡めぐみ(オルガン) & 尾崎温子(バロック・オーボエ)
【曲目】G. F. ヘンデル/オーボエ・ソナタ へ長調 HWV 363a 他 ※会場:音楽ホール

2010年1月23日(土)
【出演】ジャン＝フィリップ・メルカールト(オルガン) & 西谷尚己(ヴィオラ・ダ・ガンバ)
【曲目】N. d. グリニ/レシ・ドゥ・ティエルス・アン・タイユ 他

2月27日(土)
【出演】飯沼彩(オルガン) & 富平安希子(ソプラノ)
【曲目】J. S. バッハ:懐れみたまえ、おおまなる神よ BWV721 他

EVENT CALENDAR 2009.9.15-2009.11.30

Calendar for September and October. September 15: Exhibition 'バレエ・リュス展'. September 21: Dance 'NEO BALLET x ニジンスキー'. September 26: Music '光の庭プロムナード・コンサート'. September 27: Play '源氏語り五十四帖 第51回[浮舟2]'. October 3: Music '小山実稚恵 ピアノ・リサイタル'. October 9: Cinema '彩の国シネマスタジオ [禪 ZEN]'. October 14: Exhibition '開館15周年記念回顧展2004-2008'. October 15: Play 'さいたまネクスト・シアター 『真田風雲録』'. October 23: Cinema '彩の国シネマスタジオ 熊谷会館上映会 [アラビアのロレンス]'.

Calendar for November. November 1: Play 'さいたまネクスト・シアター 『真田風雲録』'. November 13: Cinema '彩の国シネマスタジオ 県民の日'. November 14: Play '彩の国さいたま寄席 四季彩亭'. November 15: Cinema '彩の国シネマスタジオ 県民の日'. November 21: Dance '埼玉県障害者アートフェスティバル'. November 27: Music 'ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.11 福岡洗太郎'.

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報(～2009.11.15)

PLAY

源氏語り五十四帖

お二人の名解説・名朗読で9年に渡り「源氏物語」全段を読み解いてきた本シリーズも、ついにフィナーレを迎えます。



©浅野いずみ

チケット発売日 一般:9月27日(日) メンバース:9月20日(日)
日時=第52回[蜻蛉(かげろう)] 12月20日(日)
第53回[手習(てならい)] 2010年1月24日(日)
第54回[夢浮橋(ゆめのうきはし)] 2010年3月14日(日) 各回開演 14:00
会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演=幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:上智大学教授)
料金=全席指定 1回券2,500円 第52～54回連続券6,600円

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場 アフタヌーン・クリスマス・コンサート シエナ・ブラス5

チケット発売日 一般:10月3日(土) メンバース:9月26日(土) 詳細はP.19にて

MUSIC

埼玉会館ニューイヤー・コンサート ウィーン・MARO・アンサンブル ～篠崎史紀とN響メンバーによるウィーンの前夜～

チケット発売日 一般:10月3日(土) メンバース:9月26日(土) 詳細はP.18にて

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.12 フランチェスコ・トリスターノ・シュリメ

チケット発売日 一般:10月10日(土) メンバース:10月3日(土) 詳細はP.17にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ 『愛を読むひと』 答えのない愛を、小説に込めて読んだー。第81回アカデミー賞でケイト・ウィンスレットが主演女優賞を受賞。



©Melinda Sue Gordon/TWC 2008

チケット発売日 一般・メンバース:10月9日(金)
日時=12月11日(金) 11:55 / 15:40 / 18:50
12日(土) 9:50 / 13:20 / 16:20 / 19:30
13日(日) 10:00 / 13:40 / 16:50
※11日(金)11:55上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。

会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
監督=ステイブン・ダルドリイ
出演=ケイト・ウィンスレット レイフ・ファインズ デビッド・クロスほか
(2008年/アメリカ・ドイツ合作映画/124分)
料金=一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円
シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売・当日1,000円

MUSIC

シリーズ 小菅優の現在 Vol.1 デュオ & トリオ

チケット発売日 一般:11月1日(日) メンバース:10月24日(土) 詳細はP.17にて

[チケットの購入方法について] 財団チケットセンター

0570-064-939

10:00～19:00(休館日を除く) ※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾 『ヘンリー六世』

チケット発売日 一般:11月14日(土) メンバース:同封のプレオーダーシートをご覧ください
※通し券に残席がある場合に限り、2010年1月下旬より前編券・後編券の発売を予定しております。 詳細はP.6～7にて

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～新春東西落語競演会

新春の四季彩亭は東西落語競演会。西の代表は昨年五代目を襲名した桂米團治。東からは柳家花緑が登場。どうぞお楽しみに。



桂米團治 柳家花緑

チケット発売日 一般:11月14日(土) メンバース:11月7日(土)
日時=2010年1月30日(土) 開演14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演=桂米團治 柳家花緑 ほか
料金=一般:3,000円 メンバース:2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上):2,000円

CINEMA

彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 『青い山脈』『また逢う日まで』『野火』『ぼんち』



『青い山脈』

近代日本の光と影を情感豊かなリアリズムで描いた今井正、日本映画の刷新を試み続けた市川崑。二人の巨匠の代表作。

チケット発売日 一般・メンバース:当日映像ホール受付にて
日時=2010年1月15日(金) 12:20A / 16:20B / 19:15C
16日(土) 9:50D / 13:00B / 15:45C / 18:35A
17日(日) 9:50A / 14:20C / 17:45D
※17日(日) 14:20上映回終了後、田島良一氏によるアフタートークがあります。

会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
A『青い山脈』 監督:今井正 出演:原節子 ほか (1949年/日本/172分)
B『また逢う日まで』 監督:今井正 出演:岡田英次 ほか (1950年/日本/109分)
C『野火』 監督:市川崑 出演:船越英二 ほか (1959年/日本/104分)
D『ぼんち』 監督:市川崑 出演:市川雷蔵 ほか (1960年/日本/104分)

料金=各上映 500円(小中高生、シニア同額) ※前売予約販売はありません。当日受付にてお支払ください。
主催:文化庁/東京国立近代美術館フィルムセンター 協力:コミュニティシネマ支援センター

CINEMA

彩の国シネマスタジオ 『ディア・ドクター』



©2009 [Dear Doctor] 製作委員会

命の悪人か、ただの嘘つきか。心の奥底まで揺さぶられる、『ゆるる』の西川美和による極上の人間ドラマ!

チケット発売日 一般・メンバース:11月13日(金)
日時=2010年1月29日(金) 14:35 / 18:20
30日(土) 9:50 / 13:15 / 16:15 / 19:30
31日(日) 10:00 / 13:45 / 17:45

※29日(金)14:35上映回は、音声ガイドがつかず。イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。 ※31日(日)13:45上映回終了後、田島良一氏によるアフタートークがあります。

会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督=西川美和
出演=笑福亭鶴瓶 瑛太 余貴美子 井川遥 香川照之 松重豊ほか (2009年/日本/127分)
料金=一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円
シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売・当日1,000円

[窓口販売] ※休館日を除く
・彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00
・埼玉会館 10:00～19:00 ・熊谷会館 10:00～17:00
[インターネット販売]
財団ホームページ http://www.saf.or.jp
メンバース優先予約は初日10時より、一般発売も初日10時より受付開始し、公演当日10時まで受付いたします。 ※WEB会員(無料)の登録が必要です。

発売中公演情報 (2009.9.15 ~)

PLAY

源氏語り五十四帖 第51回「浮舟2」
 日時=9月27日(日) 開演14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 出演=幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:上智大学教授)
 料金=全席指定2,500円

さいたまネクスト・シアター 『真田風雲録』

詳細はP.4~5にて

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
 ~林家たい平とおすすめ若手落語会

日時=11月14日(土) 開演16:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 出演=林家たい平 三遊亭遊馬 三遊亭歌奴 桂三木男 翁家和助(曲芸)
 料金=一般:3,000円 メンバース:2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上):2,000円

MUSIC

小山実稚恵 ピアノ・リサイタル 詳細はP.17にて ※残席僅少

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第9回
 古部賢一(新日本フィル首席) オーボエ・リサイタル

詳細はP.19にて

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.11 福岡洸太郎 詳細はP.17にて

小澤征爾&新日本フィルハーモニー交響楽団 ※予定枚数終了

詳細はP.18にて

DANCE

ローザス『ツァイトウング Zeitung』 詳細はP.10~11にて

バレエ・リュス100周年記念
 NEO BALLET×ニジンスキー ~千夜一夜 夢のプリンシパル・ガラ~

日時=9月21日(月・祝) 開演14:00 [プログラムA] / 19:00 [プログラムB]
 会場=彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 構成・演出=西島千博
 出演=西島千博 酒井はな 西田佑子 松岡梨絵 橋本直樹 佐々木大 横関雄一郎 ほか
 演目=『シエラザード』『薔薇の精』『牧神の午後』『ライモンダ』『ジゼル』『遊戯』『春の祭典』
 ほか(新作含む) ※プログラムA・Bともに演目の詳細についてはお問い合わせ下さい。
 料金=一般・メンバーズ:SS席12,000円/S席10,000円/A席8,000円/学生席3,000円

池田扶美代+アラン・プラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク
 『ナイン・フィンガー Nine Finger』

詳細はP.12~13にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『禅 ZEN』

日時=10月9日(金) 14:10 / 18:30
 10日(土) 10:30 / 14:20 / 18:30
 11日(日) 10:30 / 14:20 / 18:10

※9日(金) 14:10上映回は、音声ガイドが付きまます。
 イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。
 ※10日(土) 14:20上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。

会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
 監督・脚本=高橋伴明 原作=大谷哲夫
 出演=中村勘太郎 内田有紀 藤原竜也 村上淳 ほか (2009年/日本/127分)
 料金=一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円
 シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売/当日1,000円

彩の国シネマスタジオ 熊谷会館上映会

『アラビアのロレンス』

日時=10月23日(金) 12:00 / 17:20 会場=熊谷会館
 監督=デビッド・リーン 音楽=モーリス・ジャール
 出演=ピーター・オトゥール アレック・ギネス オマー・シャルフ ほか
 (1989年/アメリカ・イギリス/227分)
 料金=一般:前売1,800円/当日2,000円 小中高生:前売1,000円/当日1,200円
 メンバース・シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売/当日1,500円

彩の国シネマスタジオ 県民の日

『“生きる”ということを考えるドキュメンタリー作品特集』

日時=11月13日(金) 11:50A / 15:15B / 18:45A
 14日(土) 10:00B / 13:05A / 16:05B / 19:05A
 15日(日) 10:30B / 13:50A / 17:45B

A:『精神』 B:『いのちの作法 沢内「生命行政」を継ぐ者たち』
 ※13日(金) 15:15上映回終了後、『いのちの作法』小池征人監督によるアフタートークがあります。
 ※15日(日) 13:50上映回終了後、地元精神科医によるアフタートークがあります。

会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
 A:監督=想田和弘(2008年/アメリカ・日本/135分)
 B:監督=小池征人(2007年/日本/107分)
 料金=一般:前売1,200円/当日1,400円
 小中高生:前売800円/当日1,000円
 シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売・当日1,000円
 2作品セット券:一般:前売2,200円/当日2,600円
 小中高生:前売1,400円/当日1,800円
 シニア券(60歳以上、障がい者の方):1,800円

公演詳細は、財団ホームページ

<http://www.saf.or.jp>にて

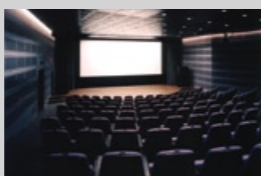
SPECIAL PICK UP



『アラビアのロレンス』

彩の国シネマスタジオ 毎月上映!
 小さな映画館のシートで週末の時間を
 ちょっぴり贅沢に過ごす

コミュニティシネマの拠点として、毎月1回、彩の国シネマスタジオ映画上映を行っています。選りすぐりの新作映画や古き名作、果敢なドキュメンタリー、音楽重厚なオペラ映画など、スクリーンを通して世界各地の心温まる人の姿に触れたり、ドキッとさせられるできごとに出逢ったり。上映回によっては、映画評論家のトークや監督から直接お話が聞けることも! ふらりと一人で、または友達や家族と一緒に、ゆったり映画に浸りませんか。



- 【上映予定】
- 10/9 ~ 11 『禅 ZEN』
 - 10/23 『アラビアのロレンス』(熊谷会館)
 - 11/13 ~ 15 『精神』『いのちの作法』
 - 12/11 ~ 13 『愛を読むひと』
 - 2010.
 - 1/15 ~ 17 『青い山脈』『また逢う日まで』『野火』『ぼんち』
 - 1/29 ~ 31 『ディア・ドクター』

※上映時間、料金等の詳細は、P.21~22にて
 ※会場は、特に記載のないものについては「彩の国さいたま芸術劇場」です。
 ※ご家族、お友達とお使いいただけるお得な回数券(11枚綴り、10,000円)もごさいませ。<発行日より1年間有効> 当日窓口にて販売。

information インフォメーション

彩の国さいたま芸術劇場開館15周年
 劇場特別見学ツアー



「彩の国さいたま芸術劇場」は10月15日に開館15周年を迎えます。15周年を迎える今回、普段は関係者しか入ることができない場所にも特別にご案内いたします。全国から高い評価をいただき注目されている「彩の国さいたま芸術劇場」の「へえ~!」を「劇場特別見学ツアー」でお楽しみ下さい。

【日時】10月30日(金) 10:30 ~ 12:00

【定員】30名(参加無料・抽選) 特典付(劇場レストラン「ビストロやま」サービス券)

※暗い所や階段など小さなお子様には少し危険な場所や体験もあるため、未就学児は参加いただけません。



【申込み方法】

次の事項を明記の上、ハガキまたはFAXでお申込み下さい。1枚で4名までお申し込みできます(全員について下記の①から④をお書き下さい)。申込み多数の場合は県内の方を優先とし、抽選をします。参加当選者へは10月10日までに参加券を送付します。参加券の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます。

- 記入事項 ①氏名 ②郵便番号・住所 ③電話番号 ④年齢
- 申込み締切 9月30日(水) 必着
- 申込み・問合せ先 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 彩の国さいたま芸術劇場 見学ツアー係 Fax.048-858-5515 Tel.048-858-5501

ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場



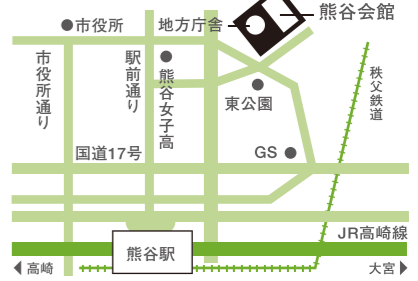
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
 電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
 電車でのアクセス JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
 バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き
 「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
 電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
 電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
 電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536
 電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

「簡単」・「早い」インターネットチケット購入

- Point 1 時間を気にせずいつでもアクセス(24時間受付)
- Point 2 メルマガで公演情報をいち早くキャッチ
- Point 3 気になる公演の空席状況をチェック
- Point 4 WEB 先行販売で良席確保(一部公演のみ)
- Point 5 キャッシュレスでらくらく購入

- Point 6 購入チケットは自宅へお届け
- Point 7 ホームページから簡単 WEB 登録(無料)

※メンバーズの方もWEB会員登録が必要です。

<http://www.saf.or.jp> (PCのみ)

■サポーター会員

(財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) エフテック / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / (株) テレビ埼玉ミュージック / 金井大道具(株) 埼玉りそな銀行 / (株) パシフィックアートセンター / アサヒ印刷(株) / FM NACK5 / 東京電力(株) 埼玉支店 / 東京ガス(株) / JA/JA埼玉県信連 / カヤバシステム マシナリー(株) (株) タムロン / (株) 十萬石ふくさや / 森平舞台機構(株) / 日本データコム(株) / (株) ビルメン / 東芝ライテック(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 ゲレツツ・ジャパン・スズゼン(株) / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / (株) アルピーノ / 国際照明(株) / (株) サイサン 会長 川本宜彦 / 三国コカ・コーラボトリング(株) (株) ショーモン / 埼玉スバル自動車(株) / (株) 東玉 / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / アイジャパン(株) / (有) 六辻ゴルフセンター 不動産開発(株) / ビストロ やま / ホッカイエムアイシー(株) / 埼玉縣信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) ブラネッツ / 関東自動車(株) / 日本ピストンリング(株) (株) クマクラ / (株) デサン / (株) グリーン企画社 / (株) 中島運輸 / (株) 国際ビジネス研究所 / セントラル自動車技研(株) / (株) アズマン / 太平洋セメント(株) (株) ピー・アンド・イー・ディレクションズ / 丸美屋食品工業(株) / 日立キャピタル(株) / ポラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉建興(株) / (株) 日産サテリオ埼玉 / 埼玉トヨペット(株) 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / (株) 東和銀行 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット / サイデン化学(株) アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー (株) サンワックス H21.8.15現在 / 一部未掲載

【問合せ先】(財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

劇場に遊ぶ、劇場で出会う

第3回 【ガレリア／情報プラザ】

イタリア語でガラス屋根の通路を意味するガレリアは、彩の国さいたま芸術劇場ならではの空間。100mにもおよぶ一直線の通路は、文字通りのガラス屋根からの自然採光で、ホールへのお客様をあたたくいざない、そして鑑賞後は感動の余韻にひたりながらの帰途を演出します。そのガレリアの左右の壁面では、10月12日まで、伝説のパレエ・リュス(ロシア・パレエ)展が華やかに行われ、私たちの目を楽しませ、感性を刺激します。まだご覧になってない方は、この機会にぜひどうぞ。

そして、ガレリアの先にある情報プラザもさいたま芸術劇場のランドマークのひとつ。劇場という、いかにも人間くさい空間にふさわしい、人と人が出会い、語り合う場として、ガラスの光庭を中心に、みなさまが情報発信と交流のために集っています。

テーブルを囲んで劇場関係者やお客同士が打合せ、交流している姿をよく目にしますし、当劇場はもちろん、各地の劇場の公演チラシも置かれていますから、開場時間よりちょっと早く着いちゃった、というお客様にも、もちろん演劇・ダンスファン、音楽愛好者の方の情報収集にもお役に立っています。人気の光の庭プロムナード・コンサートもこの情報プラザで行われ、家族でカップルで、またベビーカーに小さなお子様を連れて、生演奏に聴き入るほほえましい姿に出会えるのも、このスペース。使い方はそれぞれ、公演を観たり聴いたりするだけではなく、さいたま芸術劇場をみなさまの劇場として、情報プラザをご活用ください。

